日 時:2017年11月17日(金)13:30-15:00

場 所:福井市役所8階 第3委員会室

出席者:策定委員会 山崎委員長、古石副委員長、石丸委員、小原委員、中嶋委員

野坂委員、野嶋委員、長谷川委員、堀内委員

(欠席) 今村委員、友廣委員

資料:議事次第、第7回策定委員会説明資料、かわら版

事務局 ■次第1 開会

- ■次第2 協議事項
 - 1 前回策定委員会のまとめ
 - 2 敷地の分析について
 - 3 土地利用・施設配置について

A委員

立地の特性として公園と川があり、そういったものと一体となった文化施設ということは重要なこと。福井市民の新しい生活、文化にみどりの中で触れられるということは素晴らしい。

駅までの動線という意味では、歩いてきてもらい、帰りには まちなかを散策してもらうことで、まちとの関係ができるので はと期待している。

B委員

コンベンション機能としては、単体でやるのには難しいのではないか。

フェニックス・プラザも2,000席と同規模というのはどうなのか。

公園ということには賛成だが、駐車場の問題がある。敷地の中に駐車場を設けると、公園機能がさらに縮小する上、公演後の混乱が生じるのではないか。公園をできるだけ広くとることを考えると、文化会館と駅との間に駐車場を設けるなどの検討が必要。使いやすさということに関してもう少し考えるべき。まわりの住民の理解を得ることも懸念材料。

C委員

敷地としては最適な場所であり、そこから活性化を図り動線を検討していくべき。緑化の問題についても、現在の敷地面積からいくと駐車スペースはかなり残るのではないか。舞台の間口等、舞台形状、天井の高さについては設計の段階である程度示していただきたい。

2,000席とすれば、福井の場合は2日間興行がほとんどないが、これが1週間公演、長期であれば1か月公演、こういうものを引っ張ってこられる。それによって福井に対する経済効果を狙う。金沢を含む近辺に対して、魅力ある舞台でないと、興行ができない。

小ホールは、あくまで福井市民、福井県民が使う場所。

事務局

文化会館を配置して残りの面積をいかに緑の部分と駐車スペースに振り分けていくか、配分についても詰めていく。

フェニックス·プラザは同じ2,000席だが可動式。すみ分けができていくと思う。

D委員 敷地について、隣に昔よく氾濫した荒川があるが、もし大きな災害があった場合は大丈夫なのか。

交通アクセスの問題について、大規模な会議をすると道路も 混雑するが、そのあたりもクリアされているのか。グレードの 高いものにするにはそれなりのお金がかかるが、福井市もそれ ほど豊かな市ではないのでよく考えて進めていって欲しい。

B委員 東公園が反対ということではない。敷地内には駐車場をできるだけ少なくして欲しい。周辺の道は狭く、歩道もないため公演後が非常に心配。この敷地に車を入れるというのは非常に問題がある。やはり歩いていけるような仕掛けを考えないといけない。

委員長 さまざまなハンディキャップを持っていたり、アクセスが十分でない方々に対する配慮が必要。これは設計の段階でも十分を検討していただきたい。

E委員 大ホールには、同時通訳で国際会議ができるような施設にして欲しい。そうすれば今のコンベンション以上のものになる。目的は、福井の芸術文化の発信。福井を中心に周辺からも含めて、利用効率を高めるということ。ここで我々が最大限発揮できる、芸術・文化の発信をしていかなければならない。駐車場、緑化の問題が挙がっているが、これは当然やらなければならないこと。検討を進めていただきたい。

F委員 子どもたちが訪れたときに、緑があって、その中に文化施設があるというのは印象に残る。知恵を絞っていまの緑を残した上で、新しいものをつくっていきたい。すべての車を敷地内に停めるわけではなく、他に停めて循環型バスを走らせるなどすればよいのではないか。ただ文化会館を作るというだけではなく、まわりを視野に入れて計画を立てていただきたい。できるだけ安く、でも中身は濃いものを作れると良い。

G委員 屋上緑化をすれば、子どもたちが自然に触れたり、景色を見たりといった感性が育まれるのではないか。交通に関しては、例えば県立音楽堂に行く場合、チケットを見せると安くなるという交通機関もある。

日委員 コンセプトそれぞれ個別に項目が設定されており、全体を並べ立てていこうとすると、相反するところもあるのではないか。 駐車場をつくろうとすると公園が減る、緑が多い方が良いが樹木が多いと公園として暗くなる。

一方で、第一種住居地域の中に建てることになるため、興行 が行われたときに、周辺の住宅地への影響はなるべく小さくな るように考えていかねばならない。設計者に任せる前に、十分 に議論をしながら考えていただきたい。

事務局 ■次第2 協議事項

4 管理運営について

E委員

できる限り休館無しというのが望ましい。減免等はこれから 検討すれば良い。中核都市として活性化するためには、人が寄 り添う文化会館でなければならない。可能なかぎり365日交流が できるように。市内だけではなく、県都として、中核都市とし て、福井へ人が来てくれる、発信もするけれど、来てもらえる 施設となることを大前提として、是非前へ進めて欲しい。

生活文化的、食文化的なものも行う場ということも考えたい。 劇場については、固定席のものは絶対に必要。ただ、小ホールの舞台幅が狭くなると困る。

G委員

学校現場で大変だなと思うのは料金のこと。減免は適用されるが、冷暖房費が高かったり、交通輸送費もかかる。

利用区分については時間区分にして欲しいと思っている。

F委員

アトリエや練習室は1時間単位で借りられるほうが、たくさんの方が借りられるようになる。

A委員

運営する人が一番大事。文化会館を運営・企画する人を決めるプロセスが大事であり、どうやって決めるのかがこれからこの施設が成功する最大の要因となってくる。運営者が決まっても、市民の方、学校関係者あるいは文化活動をしている人たちが企画・参加できる仕組みが必要。

ハードの話では、自由に入れる場所をつくるべき。会館が休 みでも親子で公園に遊びにきた人が休める、カフェに行ける、 文化に触れられる、そういった自由に入れる場所が必要。

H委員

管理運営の基本的な方針についてはこれで十分だと思う。具体的な管理運営方法を決めていく際に、どうしても管理区分の仕方で、運営方針と沿わない部分が出てくる可能性もある。設計を進める中で、運営方針と両方をみながら進めていって欲しい。

B委員

運営に関してはこれで良いのでないかと思う。

福井に一流の演劇を招ける施設がないという問題を一番念頭において、今後運営の中で、そういったものを呼べるようにしてもらいたい。福井ゆかりの演劇関係の人を名誉館長として導入するなど。そういうことをしないと福井には呼んでこられる吸引力がないのでは。

富山市が貯木場を公園化し、スターバックスコーヒーを入れたが、普段から利用してもらうには、そういったきっかけがないと利用されないかもしれない。身近に使ってもらえるような仕掛けを作ってみてはどうか。

C委員

今後の運営、管理はどこで誰が主体性を持つかということを 明確にしていかないといけない。

365日皆さんが親しんでいただけるような文化施設、そういう施設が望ましい。いつでも入れるような開けた場所、名誉館長というのも大いにあり。人が来るものをつくるべき。

D委員

全国大会なら電車を使うが、北陸大会や東海大会規模の場合、 バスで会場に来るのではないか。その場合は、交通アクセスに 問題が出るのではないか。

それから、文化会館というと芸術的なものをやるというイメージがある。会議やフォーラムは、フェニックス・プラザにいってもらい、芸能的なものについては文化会館でというすみ分けができるのではないか。

委員長

住民参加という意見があったが、いまの世界的な流れとして、「パーティシペーション・参加」というキーワードがある。住民とアーティストが一緒になって創作していく、という方向性は、是非盛り込んでいただきたい。

コミュニティを維持していくためには文化・芸術が非常に大事な役割を果たしていく。年齢や障がい、経済的な状況、居住地域に関わらず、バリアをはずして文化・芸術を鑑賞したり参加したり、創造できるような、マネージメントのあり方ということを是非、扇動的に全国に先駆けて進めていっていただきたい。

居心地が良い、ふらっと行って楽しめるような、common(共同の、共有の)的な、サードプレイス、そういった仕掛けやマネージメントもできる管理運営のあり方を考えていきたい。アートマネージメントの人材を地方でどう育て、いかに定着させていくのかというのが重要になっていく。これまで福井で地道に活動されてきている方はたくさんいる。そういった方々にも是非、新しい会館でも活躍いただけるようなそういう土壌をつくっていただきたい。

事務局

■今後のスケジュール

次回スケジュールについては1月中に開催予定。